

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200084		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム角館		
所在地	秋田県仙北市角館町勝楽122-1		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年10月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業所目標は、「個別支援を大切にしながら、たくさんの笑顔で満たされる日々を送っていただきます。」と、職員全員で話し合い決めている。  
 毎年「笑顔で」「元気に」「楽しく」というキーワードが目標の中に入っているが、今年度は「個別ケア」という新たなキーワードがプラスされている。  
 入居者様一人ひとりが、自分の望む生活を継続していくために個別ケアは重要であり、入居者様全員のケアプラン内容や個別ケア内容が、職員全員の頭の中に入っている。  
 入居者様の笑顔に支えられながら、個別支援を大切にケアを提供し、ホスピタリティをプラスした気持ちを持ちながら、共に笑顔で生活を続けていきたい。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを汲み取り、機能の低下防止と向上、生きがいづくりのために利用者の主体性を尊重してやりたいことや得意なことを生活の中に取り入れ、目標を共有しながら利用者本位のケアが実践されています。支援経過等の帳票類も見直しを重ねながら整備され、管理者はじめ職員の高い意識の中で現状で良しとすることなく、提案や改善点を話し合っ更なるサービスの質の向上に努めています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は毎年、職員全員で決め、個々のケアプランを大切にしながら、沢山の笑顔で生活することが出来るよう努めている。理念と目標は常に意識できるよう、事務所とトイレ内に掲示し職員全員で共有している。	個別支援に重点を置いて日々のアセスメントをきめ細かなケアに繋げ、設定した目標が業務の中で活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催し物やイベントへの参加の機会は、感染症予防の為減ってしまっている。地域の方が野菜を届けて下さったり、犬の散歩の際に声を掛けて下さったりと、今後も地域の中で孤立しない働きかけが必要。	新型コロナウイルスの影響で認知症カフェや地域の行事が中断されていますが、運営推進会議が対面で開催される時には地域の方の参加があります。感染状況をみながら段階的に緩和していけるよう検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症の対策などの予防法について、広報誌を地域に向けて発信している。今後は認知症の人の理解や支援についての情報発信やその発信方法等を検討する必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や行事、研修内容を報告し、認知症の方の対応方法に関する相談やご意見を書面等にいただいている。それらの意見を参考にして、更なるサービスの向上に努めている。	書面、及び対面で開催してホームの取り組み等を報告し、出された意見をサービスの向上に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の現状を伝えたり、入居者様の心配事の課題解決や入居の相談、待機者数に係わる情報を共有したり、連携しながら入居者様の生活や事業所運営を支えてもらっている。	包括支援センターとはさまざまな形で連携している他、運営推進会議以外でも関係部署と日頃から協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、事業所内で研修を行い、身体拘束についての正しい理解に努めている。夜間の防犯目的以外は玄関を開放しており、スピーチロックなどの行動制限を含めた身体拘束ゼロのケアを実践している。	研修、マニュアル等を通して職員に周知し、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、高齢者虐待防止関連法の理解を深めている。ご本人様が嫌がっていることや心が傷つけられるような不適切ケアなどの虐待にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の制度を活用する方はいないが、研修を通して制度の内容を学び、理解を高められるよう努めている。 必要に応じて、それらを活用できるように意識して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の説明を行う時には、書面を見ていただきながら説明し、ご理解いただき、同意を得るように努めている。 介護報酬等の改定時も、書面や口頭で説明し、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情や相談窓口を記載し、外部への相談等も可能であることを伝えている。 ご意見の多くは面会時に直接お話をいただくことが多く、運営にも反映させている。	面会時や電話で気軽に話せる雰囲気づくりに努めて信頼関係を築くよう取り組んでおり、意見、要望を聞き取って代表にも伝えながら運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所内での職員会議等で意見や要望を聞き、毎月開催されている管理会議で報告や相談をしている。 代表者は各事業所からの報告を受け、運営に反映させている。	職員会議の他、業務中にも意見や提案を出し合い、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の受講料や参加費を補助していただけることは、職員のスキルアップや向上心につながっている。 日頃から管理者や職員と話す機会をもうけ、職場環境の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染予防に留意しながら、外部研修への参加を奨励しており、年間研修計画による研修や対象者を絞った研修も行っている。 また、研修は持ち回りで講師を行うなど、職員を育てる取り組みも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長が会長である地域密着型介護事業者連絡会に加盟し、研修等で学ぶ機会を持ち、顔が見える関係作りも行っている。 他事業所の良い取り組みは事業所内でも取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良い雰囲気作りを行いながら、特に不安な事や困っている事を聞き取り、表情や声のトーン等からも、把握するように努めている。 これらの情報はケアプラン等にも反映させ、職員との情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを行いながら、これまでの経緯や不安な事、困っている事などを話していただいている。 また、ご本人様が同席しない場所や電話で、思い等のお話を伺うようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」を把握し「している」行為等を増やせるよう働きかけ一緒に行っている。 野菜の育て方や調理法などを教えていただくことも多く、自尊心を保てるかわり方を心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お送りしている状況報告書やホーム便りでご本人様の状況を伝え、困りごととは相談し、一緒に解決できるよう働きかけている。 面会時には、ご家族様にしかできない関わりを大切にされた支援にも努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方をはじめ、お茶のみ友達だった方や同じサークルにいた方、信仰する宗教の友人の方の面会等があり、感染予防策をとりながら、ゆっくりと話ができるよう配慮している。	年数を重ねることでその人にとっての馴染みの変化にあらためて気づくこともあり、日々の関わりの中でさまざまな馴染みの把握に努め、その支援ができるように努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとり一人の性格や、他者とのかわり方を把握し、「価値観や考え方は皆違う」ということを念頭に置き、支援している。 一人での時間も大切にしつつ共同生活の良さも感じていただけるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のオムツに関する相談や、実家の親の介護に関する相談、葬儀場の相談などがご家族様からあり、フォローするなどの支援が続いている。 契約終了後も、良い関係が保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から出た希望等は、できる限り実現に向けて職員間で話し合い、ケアプランにも反映させている。 困難な場合は、ご本人様の表情や家族からの情報提供をもとに意向を把握している。	日常生活の中で利用者の思いに寄り添い、目標にも設定してアセスメントに繋げています。職員間で情報を共有し、意向に沿った暮らし方ができるように努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、時に変化するご本人様の意向を把握する為、小さな事柄でもお聞きして情報を伝えてもらい、ご本人様の全体像の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う生活リズムや言動等があった際は記録に残し、職員間で情報を共有している。 「できる力」を存分に発揮していただきながら一緒に行うことで、現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を確認し、医療職からも意見をもらいながら作成している。実践と評価を繰り返しながら、各担当職員を中心に、要望や変化に応じて臨機応変に職員全員で見直しを行っている。	モニタリングや再アセスメントを踏まえ、得意なことや希望することを介護計画に反映できるようカンファレンスで意見を出し合って作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分摂取量、排せつ状況、その日の暮らし方や言動、表情、気づきを記録できるようにし、職員間で情報を共有している。 また、今後の課題を導く為にも、記録を活用し、担当職員を中心に見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で開催した研修に参加して、新たな地域資源の情報をいただき、活用している。 入居者様がより豊かな暮らしを楽しめるよう、地域の人の力を借り、多様な地域資源と協働していく事は、今後はより必要と思う。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の希望に沿って選んでいただいている。 医療に関する疑問は、法人の看護師やかかりつけ薬局からアドバイスをいただいたり、研修会の開催などを通して、つながりを大切にしたい連携を図っている。	希望に沿って対応しています。通院不可能な利用者に対しては医師間の連携によって訪問診療が受けられるようになり、状況に応じて適切な医療が受けられるように支援しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に、ちょっとした変化のある入居者様の報告や相談を行っている。 その他、急な状態悪化時や受診の必要性に関しても、終日対応していただく体制があり、変化に対する早期の対応に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスムーズに治療が受けられるよう書面にて情報提供を行い、病院職員と連携しながら退院までの支援を行っている。 また「医療・介護連携のつどい」など、連携を強化する研修会にも参加し、関係づくりを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針(看取りの指針を含む)」の説明を行い、同意をいただいている。 重度化が進んだ段階で再度話し合い、ご本人様やご家族様の意向を尊重できるよう、事業所としてできる支援体制をとっている。	看取りの事例はありませんが、重度化した場合には指針に則って対応することを説明しており、研修も行っています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員全員が消防署員による普通救命講習に参加している。 また、事業所内で急変時の対応や異常の早期発見のポイントについての研修を行い、すぐに動ける実践力を身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を実施しており、消火器や発電機の使い方、避難誘導、119番通報の仕方などを全職員が身につけている。 災害時は協同体制を図るため、地域の町内会長様の連絡先も連絡網に記載されている。	防災マニュアルを整備し、訓練、研修を通じて有事に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとり一人の誇りを尊重し、特に排せつに関する誘導等の際には、言葉を選びさりげなく対応するように心掛けている。個人情報の保護と同様に研修も行い、言葉の内容や語調等の確認も行っている。	その人の理解に繋げるために接し方に配慮し、言葉遣いに気をつけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中から言語だけでなく表情や全身での反応等も見極め、希望や好みを把握している。毎日の洋服や飲み物、余暇活動等は、そのつど自己決定できるように働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で、ある程度の目安となる食事や体操、お茶の時間、消灯時間は決めていますが、無理強いすることなく、一人ひとりのペースやその日の入居者様の気分、したい事に合わせた支援を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えの洋服は気候に合わせて選んでもらい、髪型も自分で好みを伝え、カットしてもらっている。町内の美容院に出掛ける時は、送迎するなどの支援を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の「できる力」を活かして、調理を一緒に行い食事と一緒に摂っている。また、記念日にちなんだ食事や、入居者様が食べたい旬の食べ物を取り入れ、後片付けも手分けして皆で行っている。	準備や片づけ、野菜を育てて収穫する等の得意な場面で利用者が関わり、季節にちなんだ食事や誕生日メニューはもちろんのこと、さまざまな工夫をして食事が楽しめるように支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握できるようにチェック表を用いて管理し、咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態も工夫している。また、法人の管理栄養士からアドバイスをいただき、栄養バランスにも気を配っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行っており、磨き残しがある方には、磨き直しの介助も行っている。義歯は朝食後にご自分で外してもらい、洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつ間隔を把握し、声かけを行い、トイレでの排せつを支援している。「これあれば安心だ」「ゆっくり眠れる」とパット等を使用する入居者様もおり、ご本人様の気持ちに添った支援を行っている。	トイレで気持ち良く排泄できるよう、下肢筋力向上の体操をして成果が見られる利用者もおり、トイレでの排泄に繋げるために個々の機能や習慣を把握した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず排便できるよう、朝には冷たい牛乳、料理にはオリゴ糖を使用し、お茶の時間にはゴボウ茶を提供するなど工夫している。また、体操には腹部をひねる運動を取り入れ、入浴時は腹部マッサージも行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤や湯温、一番風呂など、入居者様の希望に沿えるように支援している。こだわりを強く持たない入居者様には、その日の体調や疲労感等を見極め、お声を掛けさせていただいている。	全員湯船に浸かって入浴できており、週2~3回、好みに合わせて対応できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースや生活習慣、その日の体調、希望に合わせて、休息や就寝できるようにしている。温度や湿度の確認、好みの寝具、時に足浴を行い、気持ちよく休める支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、薬効や副作用をまとめ、薬についての理解に努めている。特に処方内容変更後の副作用や状態の変化等を注意深く観察し、法人の看護師やかかりつけ薬局に報告や相談をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が淹れたコーヒーを飲ませたい方、お花を生ける方、お皿を拭く方、細かい作業が得意な方など、一人ひとりの習慣や役割を活かすことができるように支援しており、毎回感謝の言葉を伝えるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春はお花見ドライブに出掛け、天気の良い日には外で昼食を摂ったり、体操したりしていたが、感染症予防の為、最近では外出することがなくなってしまっている。外出は、気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られるため、感染症防止の配慮をしつつ支援していきたい。	コロナ禍にあっても、感染防止対策をしながら外出して気分転換を図っています。毎年楽しみにしている夜桜見物に出かけ、車寄せでの食事や野菜のお世話等で戸外で過ごせる時間をつくっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいないが、買い物レクリエーションの時は、財布にお金を入れて渡し、入居者様自身が自分で計算しながら商品を選んで支払いを済ませるといった一連の流れを支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の方が携帯電話を所持しているが、操作方法が曖昧になり、職員が支援している。 電話をかけたい時は、事業所の電話の子機も利用して、職員が席を外したり、居室でゆっくり話ができるように配慮をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には入居者様が活けた季節の花を置いたり、職員と一緒に作った作品を壁に貼ったり、温度湿度計を設置して、居心地の良い空間づくりに努めている。 トイレの表示は目線の位置にし、臭いを防ぐためドアを閉める等の配慮をしている。	共用空間は利用者と職員と一緒に掃除を行って適切に温度、湿度管理がされ、利用者が活けた花が飾られた清潔感のある環境となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は入居者様の相性に合った席にしており、事務所近くにソファを置き、ホール全体が見えるようにしている。 また、廊下の陽の当たる所に椅子を置き、外を眺めながら過ごせる環境を作っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みは自由にしており、テレビや椅子、タンスなどが持ち込まれ、安心して過ごす為の環境作りを支援している。 ご家族様の写真や小物など、ご本人様にとって居心地の良い空間になっている。	本人が安心して過ごせるように家族が調度品を持ち込んだりしてそれぞれの居室に個性があり、職員が工夫をしながら利用者の使い勝手に配慮した環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットや事故報告書を活用することで、日常生活上のリスクを減らし、ご自分の力で安全に生活できることに繋がっている。 今後も入居者様の状況に合わせた環境整備に努める必要がある。		